



ロータリー：
変化をもたらす

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ



会報

2017 ▶ 2018
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ
会長目標

親睦と奉仕で作る友の輪

会長／森 幹雄 幹事／阿部 洋一

プログラム

- 本日
「ロータリー財団セミナー」
地区ロータリー財団委員会
委員長 丸山 淳士様
- 次週予定
夜間通常例会

会員誕生日
森 将由生
串 橋 伸 幸

No. 2762
第15回 11月8日

出席報告

前
例
会

会員総数……………36名
出免会員……………4名
出免出席……………4名
基準会員出席…………18名
出席率……………61.11%

前
々
会

第12回 10月4日

欠席会員……………13名
内メイクアップ…………8名
修正出席率…………82.86%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

📝 会長報告 ……………

1. 10月14日は、函館にて会長幹事会が開催されました。会長幹事会に細川PGがご夫人と共に出席されておられました。会話を通して、体調は復調されたようにお見受けしました。「留萌クラブの皆様にはご心配をおかけしました。よろしくお伝えください」との事でした。
2. 10月15日は、会員と共に地区大会に参加しました。記念講演は元RI理事の裏千家大宗匠千玄室氏、演題は「茶の心、ロータリーの奉仕」財団プロジェクト、お茶の心得と奉仕の心、戦争体験を交えてお話を頂きました。会長幹事会と地区大会の報告につきましては例会プログラムにて発表があります。
3. この度の函館地区大会参加に際しまして、

北海道電力(株)留萌営業所所長であり、我がクラブの会員でもある中井会員、前任の竹田元会員さんのお二方のご尽力により多大なるご協力を頂きました事をこの場を借りまして報告させていただきます。

📋 幹事報告 ……………

- 砂川RCより11月例会プログラムを受領しました。

📄 3分間情報 ……………

会員研修委員会 高田 委員
=ロータリー奉仕の最新情報=
10月はロータリーの「経済と地域社会の発展月間」です。

第14回 10月25日(水) 天候/晴

国連はミレニアム開発目標において、地域社会と経済を発展させるには、貧困問題の解消、グローバルなパートナーシップ、環境の持続可能性が必要であるとしています。また、2014年国連進捗レポートによると、極度の貧困者数が半減、労働市場における女性の地位が上昇、テクノロジーの使用（インターネット利用者数30億人、携帯電話利用者70億人）が上昇しており、途上国の借金は安定した状態を保っています。

しかし、国連が新たに発表した「持続可能な開発目標」から分かるとおり、成すべきことは多くあります。「経済と地域社会の発展月間」の今月、各地域社会で引き続き、地域社会と経済の発展を支える活動をご支援いただけますよう、お願い申し上げます。

世界各地の活動紹介：

GubboiRC、Korca RC（アルバニア）では、養蜂のための巣箱125箱を地元の貧困家庭に提供し、養蜂技術と販売スキルの研修を実施しました。その後、ミツバチの繁殖に伴い、新たに125箱を提供する事が出来ました。

Apo RC（ナイジェリア）、配偶者を失った女性に小口融資を行い、ビジネスを成功させるための研修を実施しました。

Jamshedpur West RC（インド）、家族を養わなければならない少女・女性を対象に食品加工、服飾仕立て、コンピュータースキル、起業などの職業研修を実施しました。

Kampala-Nsambya RC（ウガンダ）、地元住民を対象にした資産管理、貯蓄、ローン、投資、保険、老後計画に関する研修を実施しました。

その他色々ありますが、世界のRCが地域社会の発展に貢献している事例を紹介しました。

10月がロータリーの「経済と地域社会の発展月間」である事を御認識頂ければ幸いです。

ニコニコBOX

- 函館地区大会ご参加ご協力頂き、ありがとうございました。 森(幹)会長
- 地区大会色々お世話になりました。

福士会員

• 函館地区大会では楽しい思い出をつくれました。 高田会員

- 先日の泊発電所の見学会に多数のご参加をいただき、ありがとうございました。中井会員
- 20年出席100%表彰をいただきました。

渡邊会員

• 地区大会のお土産ありがとうございました。

燕会員

• クラブより地区大会のお土産をいただきました。 西谷会員

前 回 403,000円

今 回 16,000円

累 計 419,000円



プログラム

「地区大会報告」

山本会員

10月14日 6時30分起床。慌ただしく支度をして7時55分産館前到着。すぐバスに乗る。バスには10名程度のメンバーが乗車。地区大会とすれば少し寂しい思いがします。例年では30名位はいたのでは？

バスは南町で照井会員を乗せ、一路函館に向かって出発。今年度は北海道電力の泊発電所の見学が行程に入っております。中井会員のご尽力の賜物です。車中ではセブンイレブン特製のサンドイッチとお茶をいただき、秋晴れの中、一路函館を目指しドライブのスタートです。3時間程度で余市町のビュッフェダイニングふじに到着、1時間ほどでお腹が満たされ（味は普通よりちょっと上）その後、泊村に向けて再度スタートしましたが、途中の海岸線は雄冬海岸と同様の絶壁でした。13時10分に泊原子力発電所に到着、本人確認のチェックを受け、概要説明も終わり、北電車両に分乗し、展望台より発電所の全景を視察、1時間半程度の視察でしたがその後函館に向けて出発しました。大変セキュリティが厳しい所でした。

約3時間位で目的地の函館に到着し、ホテル

WEEKLY REPORT

で1時間ほど休憩後、今夜の夜の宴会場である懐石の里「煌(きら)」に向かいました。函館山の中腹で、大変夜景が綺麗でした。10年前に上った時より天気が良く、写真で見る夜景と同じであり、料理もおいしく満足いくものでした。宴会も終わり、森会長、阿部幹事が合流し、2次会はスナック「ギンカ」という所を留萌クラブ貸し切りで行われました。その夜は皆さんの予想通りです。

10月15日、いよいよ本番の地区大会。函館市民会館8時30分集合、9時本会議開始ですが、留萌クラブはいつも通り前から6列目でした。2列30名の席が用意されていました。

本会議は国立ガバナーの点鐘で始まり、恒例の式次第でございます。本地区大会参加者は約1000人位だと思います。(函館RC発表)登録は1600名位で、いつもの地区大会にしてはこじんまりとして、15,000円の登録料としては寂しく感じたのは私一人ではなかったと思います。

本会議も午前の部(クラブ紹介は10時頃終了)が終り、恒例の昼食でございます。昼食の場所は函館アリーナの観客席で豪華弁当を大変おいしくいただきました。午後からは、元RI理事の千玄室さんの記念講演で始まり、休憩時間の中で細川バスタガバナーとお会いする機会があり、昨年の地区大会と比較しながらお話を致しました。細川バスタガバナーは体の方はすっかり回復され、健康そのものでした。留萌クラブのメンバーによろしくお伝えくださいとの事でした。本会議も最後になり、次はお待ちかねの記念懇親会です。会場を函館アリーナに移しての開会です。私ども留萌クラブのメンバーは午後4時30分開始のところ、15分前に入場し、飲み物は飲んでも良いと(勝手に解釈)判断し、周りを見回すと食べ物にも手を付けているクラブが大勢いて、我が留萌クラブも周りの勢いに押され、自然と食べ物に手が出ていました。5時過ぎにはテーブルに食べ物がなくなり、5時30分にはバスに乗り込み一路留萌を目指して帰路に付きました。バスの中では恒例の大宴会が始まり、バスの後方座席はすごくにぎやかでございました。私は太った方に絡まれる事無く、

10年前の函館地区大会では帰り車中で絡まれたのですが、無事誰一人として負傷者も無く、無事午後11時50分留萌到着する事が出来ました。沿岸バスのドライバーさんありがとうございました。

最後に分かりやすい「しおり」を作成してくれた阿部幹事にお礼を申し上げて報告に代えさせていただきます。

鵜城 会員

先日の14日、15日の日程で函館ロータリークラブがホストを務める函館開催の地区大会に参加をしてきました。

14日には、函館に向かう途中で、泊村にあります泊原子力発電所の見学をする事になっていましたので、とても楽しみにしていたのですが、身分を証明するために必要であると伝えられていました運転免許証をついっかり忘れてしまったので、代わりにスマートホンで撮った免許証を受付で見せたのですが、本物でなければ駄目であると言われ、残念ながら発電所を見学することは叶いませんでした。

又、写真撮影も禁止であることから、スマートホンやカメラは控室に預けての見学という事で、思いのほかセキュリティが厳重であったことに驚いてしまいました。

それでも、現在、再稼働に向けて様々な安全対策を講じていることなどの説明は受ける事が出来たので、大変意義のある時間を過ごすことが出来たと感じております。

発電所の見学の後はそのまま函館に入り、夕食やカラオケ大会などなど楽しい思い出もたくさん出来たので、本当はその事を中心にお話をしたいのですが、阿部幹事からは、鵜城さんは地区大会の本会議の報告をしてくれと、念を押されましたので、思い出話は割愛させて頂いて、本会議に付いての報告をさせて頂きたいと思います。

今年度函館で開催されました地区大会の本会議は函館市民会館の大ホールにて開かれましたが、席数が1370席という大きなホールですので、参加者全員が一堂に会しての開催となりました。

第14回 10月25日(水) 天候/晴

プログラムの内容に付きましては、私から言うまでもなく例年と同様な流れで行われましたが、例年にもましてスムーズに進行されているとの印象を受けました。

只、午前9時の点鐘に始まり、昼食を挟んで午後4時までの長丁場ですので、初めて参加された方は、とても長く感じたのではないかと思います。

この7時間にも及ぶ地区大会の本会議の中で、とても印象的で又感動を受けた事が、2点ありましたのでその事を中心に報告をさせて頂きたいと思えます。

実は、千歳ロータリークラブの福田武男ガバナーノミニが懇親会の挨拶で、感動した事があると話されていた事と、私が感じた事が全く同じでしたので、多分参加された方の大多数が同じ様な感情を受けたのではないかと考えています。

まず、一点目としては、2510地区の地区大会のR I 会長代理に選出をされた、第3490地区の台湾人であり、ヤウ チー・ジャー R I 会長代理が、挨拶から、R I 現況報告、そして、本会議午後の部の R I 会長代理所感に至るまで、すべて日本語で話されたことです。

初めに R I 会長代理の挨拶を日本語でなされた時には、「日本語のすごく堪能な台湾人だなあ〜」と感心しながら聞いていたのですが、挨拶が終わった後に、進行役の方が「R I 会長代理は日本語が一切話せませんが、この日の為に一月間特訓を重ねました」とのアナウンスがあり、会場全体が驚きに包まれました。

しかも、その後の R I 現況報告、R I 会長代理所感に至るまですべて日本語で話されました。

又、R I 会長代理所感に付いては、スクリーンの図表を解説しながら話されましたので、私は内容はそっこのけで只々 R I 会長代理の姿だけを眺めていました。

二点目としましては、記念講演をなされました、裏千家15代前家元の千玄室(せんげんしつ)さんの事になります。

事前の情報からは、正直あまり興味がそそられる人物ではなかったのですが、実際お話を聞

いてみると、英語がふんだんにちりばめられた重厚で、とても濃い内容の講演でした。

裏千家15代前家元の千玄室(せんげんしつ)さん、大正12年生まれで現在94才になりますが、今から63年前の1954年に京都南ロータリークラブの設立にかかわったチャーターメンバーとして入会し、1975~1976年度には、2650地区のガバナーをなされております。その後1988~1990年に於きまして国際ロータリーの理事の役職に付かれております。

現在はロータリー日本財団の理事長を務められており、ロータリーにとっては宝物のような方であると、あとで知った訳で御座います。

講演の内容としては、理事長を務める日本ロータリー財団の活動で、多くの奨学生が世界の平和と人々の生活をよりよくするために、国連を初めとして、様々な平和機関で活躍している事や、ロータリーによって自分が育てられたという趣旨のお話など、ロータリーに関するお話から、現在は16代目の家元として息子の千宋室さんが継承されておりますが、千利休を先祖として500年続く茶道のお話などがありました。特に印象に残ったお話は、千玄室さんが特攻隊の生き残りであったというお話です。

戦地に赴くときに、父親から、お茶の家に生まれたものだからと、千利休が切腹したときに用いた脇差を見せられ、母親が琴で「六段」を弾いて送り出されたのだそうです。幸運にも生き残りはしたものの、多くの戦友の思いをずっしりと背負いながら生きていと話されておりました。

生まれながらにして、茶道という500年続く日本の伝統文化を後継する運命を持ちながら、戦争に於いては特攻隊員として、命をお国に捧げる状況に於かれ、戦後に於いては、ロータリアンとして、今なお残りの人生をロータリーに捧げんとする生き方は、どんな言葉で賛美したらいいのかと、未だに言葉が見つかっておりません。

私はというと、現在60を超え、なんとなくしおれた面持ちで暮らしておりましたが、今は背筋を伸ばして生きて行こうと心に決めておりま

す。

この度の地区大会で、ヤウ チー・ジャー R I 会長代理と千玄室日本ロータリー財団理事長に出会えたことは、私の人生にとってとても大切な宝物になりました。

阿部 会員

まずは、遠方で行われる地区大会であり拘束時間が長いにもかかわらず、登録30名、出席16名と多くのご参加、御協力を賜りましたことに感謝を申し上げます。また、バス移動では、移動の計画を立てた私自身が同行できない不安がありました。11名のみなさま一人一人から御協力をいただき円滑に移動がなされたことを聞いております。ありがとうございます。さらには、道中に企画しておりました泊原子力発電所の見学に関して、特に中井会員には、時間的・手続的な条件を行程に沿って推し進めることにご尽力をいただき、有意義な見学会にさせていただいたことに感謝申し上げます。

本日は、14日に行われました指導者育成セミナーについて報告させていただきます。

セミナーは、コーディネーターとして、2009-2011年度 R I 研修リーダー 中村靖治様、講師として2012-2013年度 R I 会長 田中作次様を迎えて、テーマ「ロータリーを語ろう～R L I 活動について」と題して開催されました。元 R I 会長のお話を直接聞くなんてことは二度と得られない機会と思い、とても興味深く拝聴してまいりました。

中村コーディネーターが問題を提起して、会場の会長幹事、ときにはバスターガバナーの方を壇上に上げて対話をする形をとり、その後に講師の田中作治さんからお話をいただきました。2時間に及ぶ内容なのでもちろん全てのことは報告できませんが、興味深い内容だったので、一部抜粋してお話をいたします。

Zoneについて、世界中の地区を会員数が均等になるよう34に分けているのがZoneです。日本は、第1ゾーンから第3ゾーンの3つに属しておりますが、今年の6月に新しいゾーン編成が発表され、2510地区が含まれる第1ゾー

ンから、関東の一部が第2ゾーンに移って、その代りにバングラディッシュ、インドネシア、パキスタンが入ることになりました。普段、Zoneを意識することはないと思いますが、このことでどのような影響があるのか、これについては酒井バスターガバナーから明確な回答がありました。R I の理事はZoneから選出されるので、R I における日本の票が少なくなり、意見が通りにくくなる可能性があるとのことでした。Zone編成は会員35,000名ごとに世界地図に境目を付ける作業なので、105,000名いると純日本のZoneが3つとなります。現在日本には89,000名の会員がいます。8年ごとに改編があるので、それまでに最低16,000の増員をして、3つ目の票を確保したいものですよというお話でした。

昨年の定款・細則変更に関連して、細則で例会の開催を月3回にしたクラブに挙手を求めたとき、挙手した岩見沢東 R C が最初に壇上に呼び出されました。メリットとしては、出席率の悪かった月末を休みにしたことで、出席率が改善したこと、デメリットとしては2週連続休みの回数が増えて間があくことに違和感があるということでした。続いて、細則で月2回に規定したクラブに挙手を求め、えりも R C が壇上にあがりました。この辺までくると挙手をすると壇上に上がることになることに会場が気づき始めていました。最後に、祝日週を休会にする方法を採用したクラブに挙手を求めたときには、挙手するクラブが無くなりました。司会の森川代表幹事は、「半分以上のクラブで採用されているはずなんです。」と苦笑い。つられて中村コーディネーターも苦笑いをするという場面がありました。

静かになりかけた会場で、中村 C o から田中作治さんに「どうしたら R I 会長になれますか。」という質問が投げかけられました。回答は、立候補以外に方法はありません。立候補をしたあとにビデオで自己アピールを日本語と英語で撮影して選挙委員会へ送ります。年間10～15名の中から選ばれるとのことでした。田中作治さんは、周囲から立候補してほしいと勧めら

第14回 10月25日(水) 天候/晴

れても長く逃げておりましたが、逃げ切る事が出来ず、「1回だけ出る、これでダメならもう出ない。」と言って立候補したそうです。

ビジネスに厳しい人という一面も垣間見る事が出来ました。「できない言い訳をするのではなく、できる方法を考えましょう。」という話がありました。実現までには必ずいくつも壁が現れます。何かをしようとしなない人には現れません。壁が現れたら迂回したり諦めたりするのではなく、乗り越える方法を考えましょう。目標を達成するというのはそういうことです。それが成長の糧になります。と言うお話でした。何かを成し遂げようと思ったら時間計画を設定してください。と言うお話もありました。時間計画のない行動は無益とまで強調しておりました。

これに関しては、晩餐会で森会長と一緒に田中作治さんに挨拶させていただいたときに、直接体感させられました。突然「今無理だと思っ
ていてもいいからロータリーでやりたい大きな目標を話してください。」と問いかけられました。森会長が話すと、「じゃあ、いつまでにそれをやるか。」ときます。答えに躊躇すると「3年か、5年か。」ときます。何か答えないといけないと思っ慌てて「7年で。」と答えると、「ずいぶんかかるね。」と言われながら、今渡したばかりの森会長の名刺に、目標と期限の「2024年」を書き込みました。隣で私が気を抜いていると、私にも同じ質問が投げかけられました。これまで数々実現してきた人特有の説得力があり、今言ったことは心に留めておかななくては行けないと思わされました。

R I 会長の役割のお話の際は裏話が聞けました。少し紹介いたします。

年間500以上の地区大会が世界中で開催されておりますが、2510地区にR I 会長が出席した例はありません。R I 会長代理が出席するのが慣例となっております。では、世界中のどこの地区大会に会長が出席することはあるのか、答えはN o です。不公平になるので、出たくても「出るな。」と言われるそうです。

もう一つ、ポリオ撲滅もあと一歩までせまっておりますが、ポリオ以降の最重要課題は何に

なるとお考えなのか。の問いには、国際ロータリーでは、気が散るのでポリオが終わるまではポリオに集中、その後の話はしないことが決定しているのだそうです。

質問のコーナーでは、D L P の中では職業奉仕委員会と青少年奉仕委員会を社会奉仕委員会に含み、国際奉仕、社会奉仕の2本にして簡素化されるというお話がありました。2019年のお話です。D L P の中だけの話なのでクラブの組織とはリンクするものではありませんが、職業奉仕がR I の中で軽視されているのではないかと、という声があがりました。田中作治さんからは、職業奉仕は個人個人の規範であり、国際ロータリーが組織的に取り組むことかということ、最初から違っていたと思っていた。そして、この講演の締めくくりの言葉として、職業奉仕はロータリーの会員全員にとって、大事なものであることは間違いない。とおっしゃっておりました。軽んじる気持ちなどなく、むしろ本来の形に戻すものであるというR I の意志を感じました。細則については、全員が知っていることが必要で、みんなで読みあわせをする機会を作ってください。そして、社会の変化、地区の変化、R I の変化によって、細則も変えていく必要があります。クラブに必要なこと、不要なことをみんなで検討する機会を作ってください。ということでした。

全編通して、何を題材に上げても、感銘を受けるもの、興味深いものばかりでとても貴重な経験をすることができました。幹事の役割として行動したことも含め、2日間を通して学ぶことの多い大会でした。

(菅会員は次週掲載)